

「学びの質」を高めるために今ある資源を最大限に生かす

ICTは思考・表現のための手段

教育センター ミニレター

平成27年

1月号

広島市教育センター

◆1ページ

- ・研修の様子（新任情報教育推進リーダー研修，新任教務主任研修，教務主任研修）
- ・ICT機器の効果的な使用（長束小学校）

◆2ページ

- ・言語活動の充実シリーズ『体育・保健体育科編』
- ・学校の取組紹介（瀬野川中学校）

新年，明けましておめでとうございます。平成27年の幕開けとなりました。教育センターでは，本年も各学校における教育活動が一層充実できるよう，時機を得た，かつ満足度の高い研修となるよう努めてまいりたいと思います。どうぞ，よろしくお願い致します。

さて，掲載している4枚の写真は，昨年，11月26日（水）に藤の木小学校で実施した研修（授業公開&東北大学大学院情報科学研究科教授 堀田龍也先生の講演）の様子です。この研修には，新任の情報教育担当者，新任の教務主任及び校長から推薦を受けた教務主任が受講されました。実物投影機で児童のノートが大型液晶テレビに映し出し，情報を共有する実践，タブレットを活用して，思考錯誤を繰り返し，児童相互で考え方を交流する実践など，ICT機器を授業のめあてを達成させるための手段として活用した授業が全学年で公開されました。ICTが特別な道具ではなく，当たり前の道具として，日常に溶け込んでいる様子が印象的でした。

藤の木小学校の取組をまとめた資料や公開授業の学習指導案を内部webにupしています。 [SEARCH](#) [広島市教育センター](#)

ICTと黒板で理解を図る。

長束小学校 木村慶哲 教諭
算数科「図形の角を調べよう」の実践より

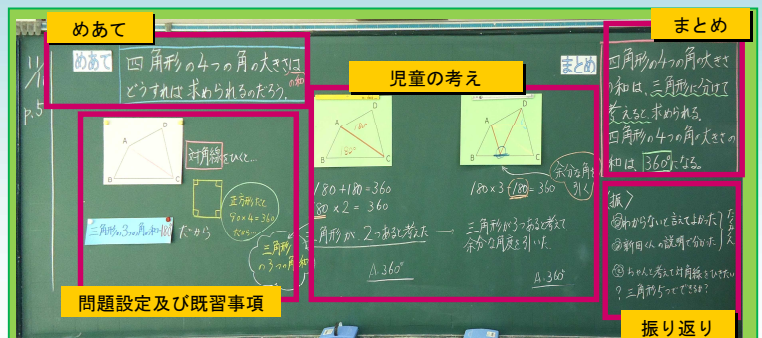
ICT機器は，「即時性」というメリットがあります。そのメリットを最大限に生かして，教師が用意した教材や児童のノート，ワークシートの提示に活用できます。そして，もう一つ大切な事は，従来の黒板を「構造的な板書」にすることです。これにより，児童はめあてを自覚し，1時間の見通しを持ちながら，授業に臨むことができます。両方を生かして併用することで授業の質が向上します。



ノートやワークシートに記述した内容を拡大して提示し，説明をさせます。



学びの
質の向上



1時間の学習展開の見通しが持てる「構造」を意識して板書を計画することが，大切です。



体育科や保健体育科が、他教科と比較して特徴的なことは、運動領域では教科書（文部科学省検定済教科書）がないことです。指導する内容が、教師に委ねられている部分が多いともいえます。そのため、授業が、学習のねらいに沿っているかを確認していくことが大切です。また、子どもたちは、ほとんどの時間を、運動場や体育館で体を動かしながら学びます。運動を通して、技能の向上を図ることはもちろんのこと、態度や思考・判断（知識、思考・判断）を学んでいく教科です。運動は、子どもと子ども、子どもと教師の人間的な関わりの中で展開されていきます。そのため、人と人をつなぐ言語活動を充実させることが重要な活動となります。それでは、言語活動の充実を図った実践事例を紹介します。

学習活動

小学校ボール運動（ネット型）を例にして

スキル練習

チームに分かれて、パスやサーブ、スパイクの練習を行う。

◎正しい技能を提示し、お互いに見合ったり、教え合ったりする

例) 教師の試技やビデオ映像を使い、動きのポイントを示し、見合ったり教えあったりするときの視点を明らかにする。

◎「動きのコツ」を擬音語（オノマトペ）で表現する

例) アンダーハンドパスをするときは、ひじを「ピン」と伸ばして！

Point

「わかる」を「できる」につなげる

作戦タイム

チームで、ゲームの作戦を選んだり、考えたりする。

◎作戦を考える際、話し合う基準や視点を明確にする。

例) 作戦を「試合を行う際の方針」ととらえ、自分たちのチームの特徴を元に、試合の方針を話し合う。

◎作戦を実行するためのフォーメーションを選択させる。

例) 試合の方針を実現するためのフォーメーション（ポジション）を提示し、方針にあったものをチームで話し合って選ばれる。

方針3
チャンスがあったら強くボールを打ち返すけど、だいたい3回で確実に返す！



方針を元に選んだフォーメーション

Point

話し合う基準を明確にする

ゲーム

チームで考えた作戦を元に、コミュニケーションを図りながらゲームを行う。

◎お互いを認める言葉

例) ゲーム開始前にチームで整列して「お願いします。」終了時に「ありがとうございました。」

◎仲間を賞賛する言葉

例) 「すごいね。」「ナイスプレイ。」

◎仲間を応援したり、励ましたりする言葉

例) 「がんばれ!」「ドンマイ!」「また、次の試合をがんばろうね!」

チームで整列して「お願いします。」



Point

コミュニケーションの活性化を図る

振り返り

◎最後にもう一度、めあてに戻り、自分の活動を振り返る。

◎学んだことや考えたこと、思ったことを学習カードに記入する。

Point

学んだことを深める

食育で子どもは変わる!

瀬野川 中学校

健康教育課より



瀬野川中学校は、平成23年度以降、学力の向上や問題行動の減少が着実に進んでいます。学校では「食育の視点からの生活改善」が、その要因の1つとして機能しているのではないかと分析しています。今回は、食育の視点からの生活改善の例として「朝食喫食」「残食減少」の2つの取組を紹介します。※瀬野川中学校の食育の資料を内部Webにupしています。御活用ください。

SEARCH 広島県教育センター

年度	朝食を食べている割合	学校給食残食率	学力		暴力行為問題行動の発件数
			「基礎・基本」3教科計	市平均との差	
平成23年度	94.7%	7.0%	205.1点	-7.4	52件
平成24年度	96.0%	5.7%	222.4点	-0.2	15件
平成25年度	98.7%	5.9%	220.1点	+18.4	8件

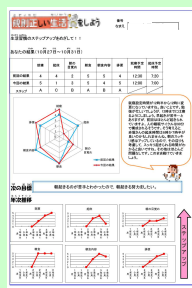
朝食喫食

「朝食喫食」は規則正しい生活のバロメータ。そこで、生徒に自分の生活習慣を見直すための「ステップアップカード」を配布し、実態に応じた個別支援を徹底しました。この取組により、学習や生活の態度に落ち着きが出てきました。

夏休みの課題では、多くの生徒が朝食づくりにチャレンジしました。生徒が作った朝食を含む「朝ごはんレシピ集」を学校が作成・配付し、朝食喫食率が高くなるようにサポートしています。



夏休みの課題



ステップアップカード(個人票)

残食減少

給食の残食を減らすためには、喫食時間の確保も必要です。そのため、時間内に配膳を終えたクラスを表彰する取組を生徒会が中心となって行いました。名付けて「ワイワイしてる暇ねえぜ大作戦」。小さな達成感を日々積み重ねるうちに、段取り良く作業を進める楽しさや大切さも学び、学校生活にもメリハリがつけられました。もちろん残食も減りました。



喫食時間確保のための掲示



残食率の減少状況(掲示物)